

# おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 20 号 (10 月 19 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 羽黒に大敗 山東の選手権 終わる

10月17日(土)、18日(日)真室川にて選手権県予選の準々決勝、準決勝が行われました。山東は17日、羽黒高校と対戦。相手は問わずと知れた優勝候補。胸を借りるとは勝負に臨む以上いいたくないが、構図としては格上 格下対決。失うものが何もない山東にとっては、力みのない構図が好結果をもたらしてくれることに期待。とにかく序盤から粘り、相手の焦りを誘う以外、勝ちはないと思いながら試合に臨みました。

序盤、まずまずの立ち上がり。相手に押し込まれるものの、ピンチは作らせない。山東もFWがしっかり体を張って起点を作るので、それなりの攻撃になっている。羽黒優勢とはいえどっちつかずの中、羽黒のゲームメーカーがペナルティエリア外でボールを受ける。山東はゴール前を破らせない意識はあるが、押し込まれたときにMFがDFに吸収されるのみで、ペナルティエリアの外側での敵のボール回しへのプレスが遅れ気味<sup>1</sup>。FWの後ろからのプレスも不徹底。そんなプレスの甘い状況を見逃すではなかった。ゴール左方面(山東GKから見て右方面)から右足で振り抜かれたシュートはアウト回転しながら(山東GKの手から逃れるように)ファーサイドのゴール右隅に(山東からしたらゴール左隅に)吸い込まれるビューティフルシュート。早くも苦しい試合展開となる。

とはいえ、山東もFWがたびたび深い位置まで侵入することができ、「決して得点できそうもない」という雰囲気ではない。「これからこれから」との声がかかり果敢に同点ゴールを狙いに行った矢先！アウトサイドから中へドリブル突破を図った羽黒の選手について行けず、フリーでプレーさせてしまう。その選手がゴール中央に斜めにショートパス、一人スルーした後に必殺のスルーパスが飛び出し、きれいなボール回しから、羽黒の理想的な追加点。山東からすれば勝利が遠のく追加点。「やはり番狂わせは起きないか～」との声がかかしこから聞こえてきそうな、そんな力の差が出たシーン。

その後、山東もFWを走らせワイドに展開するシーンを作るも、センターリングが合わないことが多く、シュートまで至らない。FWもシュートを打てないわけではないが、自由な状態で打たせてくれないため、結局不十分なシュートとなり、外れる。前半を

<sup>1</sup> 敵FWのポストプレーに対して、DFのアプローチ、MFの挟み込むディフェンスができていないため、DFとMFが下げさせられ、MFの前のスペースを使われてしまっている。

2 - 0で折り返す。

ハーフタイム、選手は決して攻められてないわけではないことから、「行ける行ける」と気丈に声を掛け合う。ただ、こうもディフェンスができないと・・・不安は後半に的中する。

後半、羽黒優勢ながらたびたび山東が攻め込むことができる、という前半と同様の試合展開。しかし中盤の1対1で山東の選手を置き去りにしゴール前に侵入する羽黒のドリブルを、山東ディフェンスが止められない。ゴール至近距離までの進入をたびたび許し、決定的な形からゴールを重ねる羽黒。対して山東は攻めることはできるが、十分な状態でシュートまでいたらず。こちらも前半と同様。結局、後半3失点し、0 - 5で終了。

意外に！結構攻めることができたし、早いうちに1発でも入っていれば、という思いはありますが、よくよく考えると、羽黒のシュートにはフリーで打たれたものがあったのに対して、山東のシュートはいずれも近くに敵がいるような限定された状況で打たれたものばかり。苦し紛れのミドルシュートが多かったように思われます。本当に羽黒ベンチを焦らせた攻めがあったかどうかは、怪しいところです。もちろん決定力も実力のうちです。ということでかなりの実力差を感じました。特に守備力を少しでも上げることは急務でしょう（Yリーグであれだけ失点しているのですから今更と思われる方が多いかと思いますが）。また、後半痙攣する選手が複数出て、高いレベルの試合（ハードに動く、動かされる試合）を乗り切る体力に欠けているという初歩的な問題も露呈しました。

今月末から行われる県新人戦も、1回戦の相手は羽黒高校です。良い戦いができるかどうか、短い時間ですができることをやって、大会に臨みたいと思います。別紙に県新人の予算案と、組み合わせを載せておきます。応援よろしく願いいたします。